

音楽科部会

研究主題 確かな感性をもち、喜んで音楽活動に取り組む子どもを育てる指導

1 主題について

昨年度は、「音楽づくり」におけるイメージのもたせ方の大切さについて学んだ。今年度は、昨年度の反省を基に、イメージを豊かにもたせる手立てを大事にしながら、器楽の活動を取り入れた授業の在り方について研修した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月13日	第1回 総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	8月23日	指導案検討会（長木小）
6月17日	授業交流（桂城小）	10月25日	第2回総合研究会 授業研究会（長木小）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年6月17日（金）
- ・会 場 桂城小学校
- ・題材名 3年「拍のながれにのろう」
- ・授業者 福司 一夫

(感想)

- ・「つかむ」段階で、お囃子の音楽を聴きながら手拍子を打つ活動を取り入れたことにより、お囃づくりへの意欲が高まっていた。
- ・お囃づくりの手順を板書と学習カードで示し、教師が実演したことにより、児童は迷いなく活動に取り組むことができた。
- ・4人グループで個々の旋律をつなげて発表する活動を取り入れたことにより、教え合ったり助言し合ったりなどの、児童同士のかかわり合いが見られた。

(2) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月25日（火）
- ・会 場 長木小学校
- ・題材名 2年「いろいろな音にしたしもう」
- ・授業者 武内 卓子

①授業者から

- ・楽器の組合せの例示について、児童がよりつかみやすいように、指導過程を変えた。
- ・「響き」について、子どもたちが、どの程度つかんでいたのかをつかみきれないまま本時を迎えてしまった。
- ・「イメージ」の捉え方については、楽器の組合せや順番をどのように表現したらよいか工夫することで表れると考えた。動作化をしたり、絵をかかせてみたりした。たたく様子に表れるのではないかと思った。

② 協議

〈組合せの例示について〉

- ・「楽器の組合せ」の例示が分かりやすく効果的であった。
- ・児童が活動する際のよりどころとなった。

〈教師の支援について〉

- ・ホワイトボードを用意したことで、グループ活動の際に、カードを並べながら組合せを考えて活動することができていた。
- ・「音の仲間分けの表」を生かしていければよかった。



【この組合せはどうか？】

〈グループ活動について〉

- ・ 組合せや順番を変える時に、なぜ変えるのかわけがあればよかった。
- ・ グループで紹介し合う時に、「ぼくたちは、～という意味で順番をこのようにしました。」と意図が伝わるように始めれば、感想発表もそこにこだわって言えたのではないか。

【順番や組合せについて、話し合う】



(3) 指導助言 (小林 秀雄 指導主事)

① 授業について

- ・ 学習指導案が届いた時に、「音楽づくり」となっていたが、今回の場合は「器楽」である。
- ・ かぼちゃの大きな絵があり、イメージづくりにつながっていた。
- ・ 子どもたちが、自由に組み合わせながら活動していた。そして、その意見を大事に取り上げていた。楽器の組合せの例示がよく、子どもたちが自分たちの工夫に生かすことができていた。
- ・ 子どもたちが、「高さ」「響きの長さ」「材質による違い」「楽器の持っている大きさ」「オノマトペ」など、楽器の音色をしっかりと聴き分けていた。実際に音を出して考えていることが生きている。
- ・ ねらいと課題と学習評価の一体化を図ってほしい。題材全体を通して学習するのは何なのか、本時は何をするのか。学習指導案に明示すること。はっきりしないと分からない。
- ・ 10時間で、〔共通事項〕一つだと少ない。他の要素もあった。イメージを捉えさせる時には、歌詞も大事だが、例えば、旋律の音程がだんだん上がっていくこと、リズムが細かくなっていくことなどを感じ取らせることによって、強弱が強くなっていくことも考えられる、そして曲の気分の感じ取りにつながっていく。
- ・ グループでの活動では、曲のイメージをもつことと、表現することが結び付いていく。耳で聴き取りながら試行錯誤しながら音探しができる。まずやってみることを大切にしてほしい。
- ・ 音楽科でも、系統的指導を大事にしてほしい。次の学年に上がる時、どこまでできていなければならないのかをしっかりとつかんで指導をしてほしい。

② 「音楽づくり」について

- ・ 教師が、どのように枠を与えてあげられるかが大切である。低学年のうちには、遊んでいるうちに気付く。遊びのルールをどれだけの確に与えることができるか。しぼりすぎても、自由すぎてもいけない。
- ・ 「音楽的な約束ごと」を設定する。音楽の仕組み（反復・変化・対照）について、例えば、同じフレーズを2回は使うとか、下がっているから、どこか一つは上げてみるとか。
- ・ 鑑賞との関連を図る。試しながらつくる。価値付けと必要な指導。例えば、子どもの思いを褒め、なぜよいのかを話す。そして、「今度は、～してみるといいかも…」と発展させる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 効果的な組合せの例示、ホワイトボード上で動かしながら、音色を試しながらの活動を設定してあげることで、子どもたちが思いをもって音とかかわることができていた。音の面白さに気付いたり、その響きや組合せを楽しんだりしながら表現するための指導法について学ぶことができた。

(2) 課題

- ・ 音楽的要素に焦点を当てた音づくりの指導法